

人の一生を支える学問

歯の治療だけが、歯科医師の役割ではありません。

口から人の一生を支えること。

これが、わたしたちの志です。

食事をし、言葉をかわし、表情がうまれる。

人と人とが関わり生きていくうえで、

口が担う役割の大きさを常にかけてきました。

「口腔の健康が全身の健康につながる」

この考えは、歯科医学を口腔科学として捉える

開設当初からの先駆的概念でもあります。

ときを重ねても多くの人が笑顔でいられるよう、

知識を深め、技術を磨き、真摯に向き合っていく。

松戸歯学部で見つけてほしいのは、

人の幸せを支える歯科医師の姿勢です。

ORAL SCIENCE

松戸歯学部の教育ビジョン

歯科医師の役割は虫歯を治療するだけではなく、

口腔の健康を通じて全身の健康を支えるために、ますます重要となってきます。

松戸歯学部は歯科医学を「オーラルサイエンス(口腔科学)」と捉え、

医学の一分科としての教育を行っています。



松戸歯学部 3つの特長

POINT
1

付属病院と連携した実践的な臨床実習

指導医、患者さん、医療スタッフと関わりながら診療に参加します。付属病院での実習を通じて、知識・技術だけでなく、柔軟なコミュニケーションスキルを身に付けることができます。実習の舞台となる付属病院は、歯科大学付属病院として電子カルテを国内初導入し、様々な最新検査機器を備え、複雑化・多様化する医療ニーズに対応したスキルを身に付け即戦力となる歯科医師を養成します。

全国でも来院患者数 トップクラスの付属病院

来院患者数年間21万人以上、1日約720人、年間入院患者数延べ約2,400人。全国の歯学部付属病院でもトップクラスの来院患者数を有する付属病院では、患者さんのご協力により豊富な臨床経験を積むことができます。また約70人の歯科医師臨床研修医の受け入れ体制を整えています。

患者さんを中心とした 機能的な医療環境

地上4階、地下1階の付属病院棟には、歯科治療用ユニット183台、ベッド数31床を備えています。パティオを中心に22診療科(歯科18科、医科4科)を機能的に配置し、患者さんを中心とした構造になっています。また、歯科用CBCT、医科用MDCT、MRIなどを有するなど、充実した医療環境を整えています。

地域歯科医療の 中核を担う付属病院

付属病院は、臨床実習の場であると同時に地域歯科医療の中核を担い、口腔の健康は全身の健康を支える「オーラルサイエンス(口腔科学)」の理念のもと、新たな歯科医療の分野に挑戦を続けています。最新の設備で高度な医療を提供する一方、地域に根ざした取り組みを積極的に行っています。

POINT
2

「医療行動科学」でプロ意識を修得

カリキュラムポリシーにうたわれている「対人関係能力や医療人としての人格を備えた全人的な歯科医師を養成」の観点から、1～4年次にわたり「医療行動科学1～4」を設置しています。患者さんの声に耳を傾け、その思いをくみ取って適切な説明・治療ができるよう、講義や実習を通して患者心理の理解を深め、プロフェッショナリズムを修得します。



POINT
3

教職員が一丸となったきめ細やかな学修支援

1年次から4年次までに配置された学修サポート委員と学年担任が、学生や保証人との面談を定期的に行い、成績の状況に応じて学修方法や弱点補強のための工夫などのアドバイスを学生一人ひとりに行います。また、5年次では臨床実習への対応、6年次では歯科医師国家試験のために、それぞれ10～12名程度の班に2～3名の教員を配置し、臨床実習へのアドバイスや歯科医師国家試験に向けての助言など、きめ細やかな学修支援を行います。



付属病院の診療科紹介

■診療部門

【歯科】

放射線科 / 臨床検査科 / 病理診断科 / 総合歯科診療科 / 歯科疾患管理科 / 口腔機能維持管理科 / 健康増進歯科 / 医療連携科 / 保存科 / 補綴科 / 歯周科 / 小児歯科 / 矯正歯科 / 特殊歯科 / 口腔外科 / 麻酔・全身管理科 / 口腔インプラント科 / 顎関節・咬合科

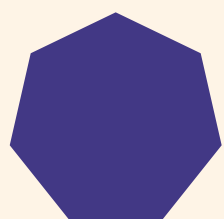
【医科】

内科 / 脳神経外科 /
頭頸部外科・耳鼻咽喉科 /
心臓血管外科



*詳細はこちらをご参照ください。





松戸歯学部 の学び

KUMON





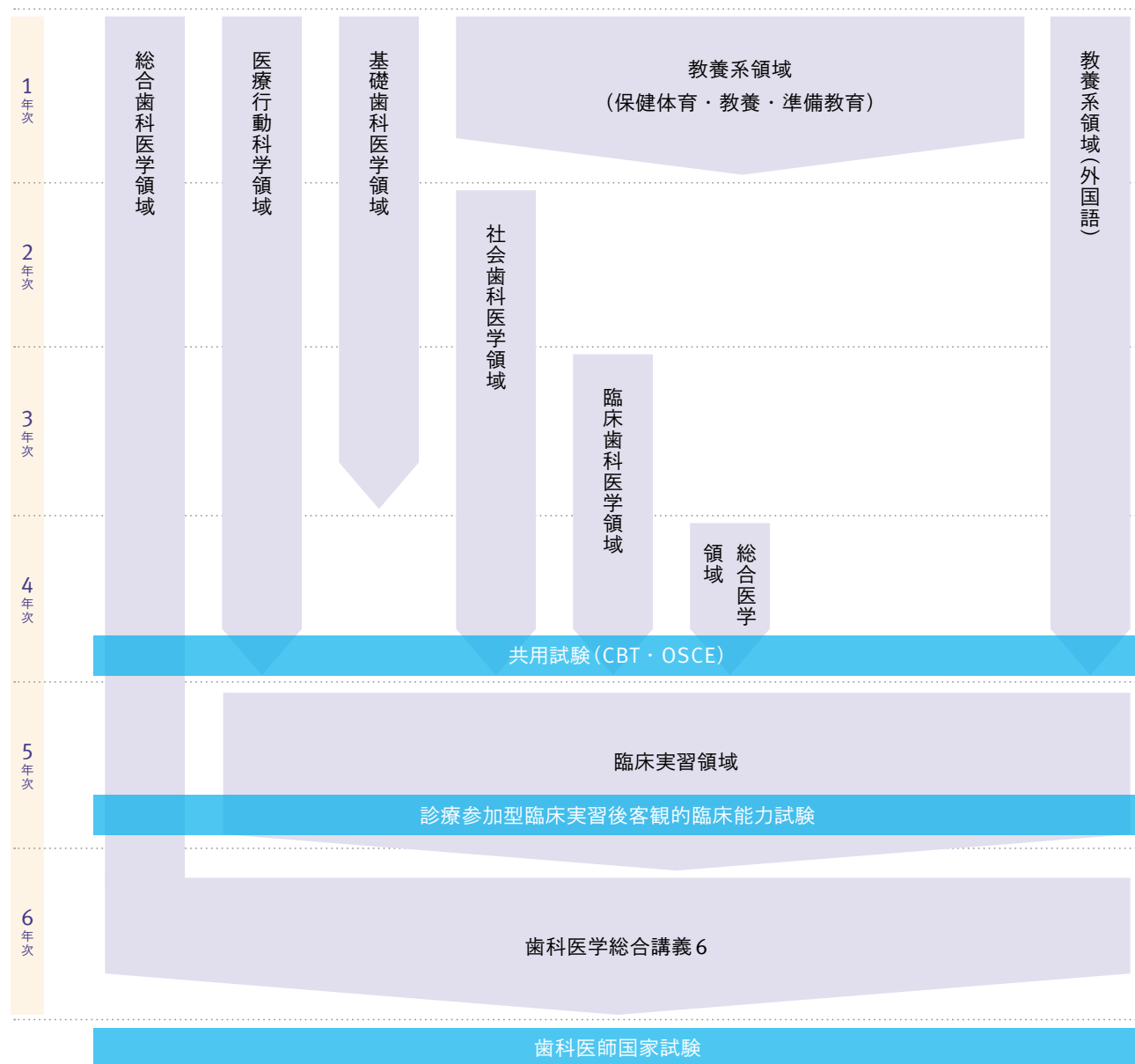
6年間のカリキュラム

全人的な歯科医師を養成する教育システム

基礎歯科医学と基礎医学の「学問体系別講義」と、1つのテーマに様々な専門分野の教員がアプローチする「統合型講義」を連携させた総合的な教育体制を敷いています。また、各学年で段階的に知識や技術を修得できる「歯科医学総合講義」を設置し、一人ひとりの学修到達度を確認しながら効率的に学修を進めることができる独自の「歯科医学教育システム」を確立しています。



*詳細はこちらをご参照ください。



「共用試験 (CBT・OSCE)」とは

「共用試験」は、実際に患者さんと接する際に必要な知識・態度・技能を身に付けているかを判断する試験で、臨床実習前の学修のまとめとして実施されます。コンピュータを用いて知識・問題解決能力を評価する CBT と、態度・診察技能を評価する客観的臨床能力試験 OSCE があり、この試験に合格すると5年次に進級し、臨床実習に進むことができます。

「診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験」とは

「診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験 (PCC-PX)」は、臨床実地試験 (CPX) と一斉技能試験 (CSX) から成り、臨床実習を通して総合的な臨床能力が身に付いているかを判断する共用試験です。

各領域概要

教養系領域 (保健体育・教養・外国語・準備教育)

歯科医師には専門知識・技術だけでなく、幅広い教養も必要という観点から、充実した教養科目群を設けています。日本大学全学共通教育科目「自主創造の基礎」「日本を考える」では、大学での学びやこれからの生き方において必要な日本大学教育憲章に示す基礎的素養を学生個々が身に付けることを主眼としています。また、実社会との関連から教養を学ぶ意義への理解や自身の専門分野を学ぶ意識を高め、以後受講する科目等の成果の充実に寄与するものとなります。準備教育科目の「物理学」「生命科学」「数学」においては、基礎歯科医学との関連性を重視した学修指導を行っています。

総合歯科医学領域

複数の異なる専門分野の教員が1つのテーマにアプローチする統合型講義を展開し、各学年で修得すべき知識・技術を確認しながら、全人的歯科医師を養成することを目的としています。

医療行動科学領域

歯科医師としての専門的能力を修得するための知識・技能を1年次から4年次まで一貫して学修します。授業は統合型講義で行われ、知識の修得と学内外での体験学修により、医療人としての資質・人格を段階的に形成していきます。

基礎歯科医学領域

歯科医師になるためには、人体の構造とその詳細、各部分の機能を十分に理解する必要があります。さらに、病気の原因や治療に用いる薬の作用なども十分に理解しておく必要があります。

学生教育の質を高める
「教育・学修総合センター」

松戸歯学部では「教育・学修総合センター」を設置し、学修を支援する教育システムを構築しています。収集した成績等のデータに基づいて作成した教材を学生に提供し、苦手分野の克服を目指しています。また、全ての試験成績に基づいて分析したデータを学生にフィードバックすることで、学びを確実に進めるためのサポートを行っています。

ます。このような医学にとって基本的な知識は基礎医学とよばれており、専門的には解剖学、組織・発生学、生理学、生化学、薬理学、微生物・免疫学、病理学などの分野に分かれています。これらの学科目を系統的に学修することで、実際の歯科治療の知識・技術修得へ向けての基礎知識を身に付けます。

臨床歯科医学領域・社会歯科医学領域

人体についての医学的知識をもとに、歯科治療はどうあるべきかという理論と具体的な治療法について学びを深めます。歯の硬組織や周辺組織に関する疾患や、その欠損と障害、口腔顎顔面領域の軟組織や硬組織に発生する疾患や障害など、様々な症例と治療法を学ぶことで歯科医療対応を修得します。また、歯科医療の社会における役割と公衆衛生への関与を学び、科学論文の理解に必要な医療統計学の基礎を学修します。さらに講義と実習を組み合わせることで、臨床実習にあたっての、医学・歯科医学の知識と歯科医療の実践との双方を併せ持つ能力を身に付けます。

総合医学領域

臨床実習前に、内科学・外科学などを主体にした医学分野を横断的かつ複合的に学び、「オーラルサイエンス (口腔科学)」を実践するための知識・技術を統合型講義で身に付けます。

臨床実習領域

担当医の指導を受けながら、1年間をかけて医療現場の実務を修得します。患者さんと接することで、技術だけにとどまらず、歯科医師としての態度、職業意識を身に付けます。

● 歯科医師国家試験サポート

国家試験対策委員会・学修サポート委員会

担当教員が適切な勉強方法の相談など、さまざまなサポートを行います。1～6年次クラス担任・国家試験対策委員・学修サポート委員を中心に面談を実施し学修支援を行っています。

歯科医学総合講義5

5年次に行われる、臨床実習の前に毎朝行われる講義です。症例の問題解決力を養い、国家試験に対応できる知識を修得します。

歯科医学総合講義6

6年間の歯学部教育を総括するまとめ講義です。歯科医師国家試験を徹底的に分析した試験も行います。

第117回
(2023年度)
120名
(全国歯科大学中2位)

歯科医師国家試験合格者数(総数)



● 海外留学制度

ケンブリッジ大学ペンブルック・カレッジ (サマースクール)

日本大学は英国ケンブリッジ大学で長期にわたり、3週間のサマースクールを実施しています。研修期間中は、日本大学と共同出資で建設した学寮に滞在しながら、カレッジ生活を体験します。

日本大学大学院海外派遣奨学生

大学院学生を海外に派遣することにより、研究者の育成及び国際交流の進展を図り、本学の発展に資することを目的としています。

エリザベスタウン・カレッジ

英語運用能力のレベルアップを目的としたプログラムで、エリザベスタウン・カレッジ内の寮に滞在し学びます。米国の生活・文化を体験するため、ニューヨーク、ワシントンD.C.といった都市へのフィールドトリップも企画される予定です。



基礎的な歯科医学を総合的・複合的に学ぶ 幅広い教養の知識と



真田 理菜さん

入学して2年が経ち、歯学部生としての生活にも慣れてきました。1年次では、基礎科目を中心に保健体育や自主創造の基礎など様々な科目を学修します。加えて、歯の解剖学という次年度以降の臨床系の履修科目に繋がる科目もあります。この科目では、座学だけでなく、カービング（歯型彫刻）などの実習を行うため、歯学部生ならではの授業を履修することができました。2年次では、履修科目がガラッと変わります。臨床の現場にダイレクトに関わる専門知識を蓄えるための科目を履修し、すぐに実習でその知識を実践します。特に、解剖学では実際に人体

の構造を修得し、命の尊さを学ぶ貴重な機会となります。他にも、微生物学や組織学といった小さな世界の学問や、生理学や免疫学といった人体に関わる学問など、国家試験合格のために必要不可欠な知識の修得に日々努めました。2年次は、1年次と比べるとハードですが、日々支え合い学びを共にする同級生との絆が深まった1年となりました。令和6年度からは校舎が新しくなりました。新しい環境で学べる喜びを感じつつ、素晴らしい歯科医師として社会に貢献できるよう、更に勉学に励んでいきたいと思っています。

学びの特色

POINT 1

自主創造の基礎



学生一人ひとりが「将来目標を設定する意識付け」「学ぶ目的の意識付け」ができるような「自主創造型パーソン」の育成を目指した初年次教育科目が設置されています。1年次では「自主性」と「創造性」への導入を目指す「自主創造の基礎」を展開。松戸歯学部で求められる学修技法や将来に繋がる学修のあり方について学びます。

POINT 2

医療行動科学

【1・2年次】
統合型講義と体験学修により知識の修得だけではなく、社会から求められる医療人としての資質・人格を形成していきます。

【3年次：患者－医療関係学／医療人間学】
患者さんと医療者のあるべき関係や、自らが取るべき行動指針について学修します。

【4年次：医療面接・歯科臨床診断学／医療コミュニケーション学】
最適な医療を行うために必要な診断までのプロセスや、患者さんとの信頼関係を築くための医療コミュニケーションについて学修します。



2年次後学期の時間割

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
1	歯科医学総合講義2	薬理学1	歯科医学総合講義2	歯科材料学1	衛生・公衆衛生学
2	医療行動科学2	歯科材料学1	英語2	歯科材料学1	微生物・免疫学
3	解剖学	解剖学	組織・発生学	生理学	微生物・免疫学
4	解剖学	解剖学	組織・発生学	生理学	オフィスアワー

（令和6年度 参考）

教員メッセージ

病変が語る物語を紐解き真理を探ろう

本学部では3年次に病理学と口腔病理学の講義と実習があります。これらの授業は、皆さんが歯科医師になった後、患者さんの口腔の健康を支えるうえで欠かせない基礎知識を学ぶ大切な時間です。疾患の基本的な概念や病理組織の観察を通じて、その病因や特徴を理解することは、臨床で口腔疾患の予防・診断・治療に役立ち、ひいては患者さんの全身の健康の維持にもつながります。実習では、多数の病理組織標本

や症例写真を用いて具体的な病変の特徴を学びます。日本大学では学生の皆さんが主体的に学び、考え、未知の領域に踏み出す力を育むことを目指しています。この講義・実習は皆さんが自立した歯科医学の学修を実践できるようになるための良い機会です。意欲的に臨むことで、生命の営みと疾患への理解が深まり、患者さんの健康を全体的に支えるための見識と技術が修得できます。



専任講師・末光 正昌
[病理学]



坂下 弘起さん

5年次では松戸歯学部付属病院にて臨床実習が始まり、実際に多くの患者さんと接し歯科医師として必要な知識や臨床能力を養うことができます。各診療科で一定期間の実習を行うことができるため専門的な知識を得るには素晴らしい環境です。4年次までは座学が中心であり知識をインプットすることがメインでしたが、臨床実習では学修してきたことを実践的にアウトプットすることができ、歯科医師として必要なスキルを育むこと

ができました。また、5年次は臨床実習が中心になるので、図書館等を利用するなど空いている時間などを有効に使い、座学の勉強やテストへ向けての勉強をします。松戸歯学部の魅力は先生と学生の距離が近く、疑問点や聞きたいことなどがあればすぐに教えてもらうことができることです。そのため分からないまま終わってしまうということがなく、最大限に知識を得ることができます。

学びの特色

POINT 1

診療参加型臨床実習(SD診療)

付属病院を受診する患者さんの治療に参加し、歯科医療の実践力を培います。指導医のもとで、初診時医療面接と応急処置、診査・検査・情報収集と分析、総合的治療計画の立案、患者さんへの説明まで学生が行います。さらに、指導医の指示を仰ぎながら実際に患者さんの治療を担当し、患者さんとの良好な関係構築のためのコミュニケーション能力と診察技能を高めます。



POINT 2

課題別臨床実習



6年次に実施され、各診療科で参加型臨床実習を行いながら、新5年次生に基本的臨床能力を指導することで自身の知識・技能・態度を見直し、より専門的な知識・技能・態度を統合的に修得します。

POINT 3

歯科医学総合講義6



診断・治療・予防までの一貫した診療を実践できる歯科医師を目指して講義を行い、歯科医師国家試験の合格に向けて6年次までに履修した知識・技術を集約します。

教員メッセージ

歯科医師を目指す学生を全力でサポートします

5年次では付属病院での臨床実習が始まります。ローテーションで各診療科に配属され診療に参加していきます。見学や介補だけでなく、担当患者の診療では自ら治療計画を立て実際に治療を行います。知識や技能とともにコミュニケーション能力も求められ、臨床実習を通して医療人としての自覚が芽生えていきます。6年次になると歯科医学総合講義6が始まります。松戸歯学部では歯科医師国家試験の傾向を分析し、

国家試験対策となる講義を行います。定期的に面談もあり、いつでも先生方に質問や相談ができます。また、放課後も使用できる学修スペースがあり、勉強に集中できる環境が整っています。6年間の学生生活の中で皆さんには将来どんな歯科医師になりたいか思い描き、夢を持って学んでいただけたらと思います。私たちはその夢を実現できるよう全力でサポートしていきます。



助教・石井 かおり
[歯科矯正学]